



表紙の人

松尾 葉奈さん(13)

北方町在住・多久中央中学校1年
全九州女子相撲に県代表で出場

低く鋭い立ち会いからの突き押し相撲を得意としている。大相撲序二段で活躍中の琴松尾こと松尾将志さんを兄に持つ。



▲2倍以上の体重差がある父・清史さんとのぶつかり稽古。強靱な足腰は厳しい稽古で培われる。

午後7時、北方運動公園相撲場を訪ねると、白いまわしを締めたちびつ子力士達の姿があった。ここでは毎週水曜日の夜と土曜日の午後に、小学生を中心とする「チーム北方」が稽古を行っている。

チーム北方には、男子選手に混じって、3人の女子選手も所属している。そのうちの最年長が、中学校1年生の松尾葉奈さんだ。葉奈さんは、7月1日に行われた全九州女子相撲選手権大会の佐賀県予選で準優勝。県代表として、8月26日に行われる本大会に出場する。

相撲道 “まっしぐら”

葉奈さんの兄・将志さんは、大相撲佐渡ヶ嶽部屋の「琴松尾」として、序二段で活躍中。小兵ながら、鋭い立ち会いで攻める取り口が持ち味の力士だ。

さて、目の前で、体重100kgはあろうかという父の清史さんを相手にぶつかり稽古を繰り返す葉奈さんを見ると、どうしても琴松尾の土俵さばきが重なって映る。幼

い頃から父と兄が行う相撲や柔道の稽古に慣れていたという葉奈さんだが、そこで自然と身に付いた動きなのかもしれない。

清史さんは、普段は子どもたちに笑顔で接する気さくな人柄だが、稽古中は別人。「脇を締めろ」「楽な相撲を取るな」と、葉奈さんに向けて大声を飛ばす。それは負けじと、何度もぶつかっていく葉奈さんのスタミナは相当なものだ。

私は「負けず嫌い」

取り組みの際に気を付けていることを訊くと、「とにかく低く当たることです」とはかみながら答えてくれた葉奈さん。控えめで口数は少ないが、自分の稽古の合間には、疲れているにもかかわらず後輩達の相手もこなすなど、本当に相撲が好きなのだということが十分感じられた。

清史さんによれば、葉奈さんはかなりの負けず嫌い。プロの舞台で活躍する兄の姿を見て自らも発奮しているそう

うだ。「その思いを力に変えて、全九州大会では頂点を目指してほしい」と清史さんは期待をかける。

何度も父の大きな体にぶつかっている葉奈さんの眼差しには、それに応えるかのような確かな闘志が宿っていた。



▲清史さんがコーチを務める「チーム北方」。稽古は厳しいが、相撲を心から楽しんでいる様子が伝わってきた。



▲稽古の合間に、後輩たちに胸を貸す。休む間もなく動いていた。

【有料広告】

www.ktknet.ne.jp

インターネット体験コーナーあります

初心者の方でも安心の訪問サポート☆

これは速い！160メガコース体験できます

実は工事費キャンペーン中でお得です

今別の会社で契約してる方も比べてみて下さい

資料請求や工事のご依頼は ☎20-2580まで

姫野市姫野町下野甲 716-21 株式会社 テレビ九州